

2. モモのアザミウマ類

モモ園や樹内でみられる多くのアザミウマ類の中で、モモ果実でみられる種は4種あり、その大部分はミカンキイロアザミウマである（図1）。

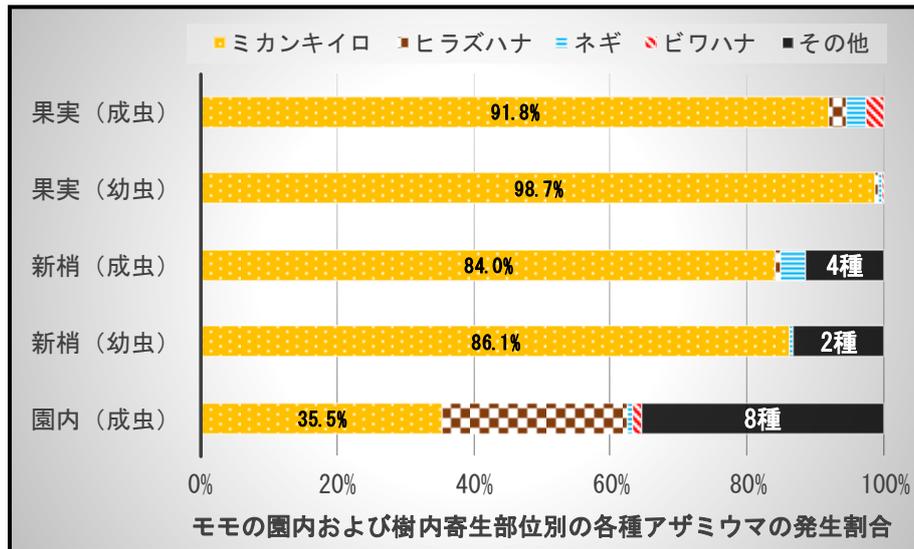


図1. モモ園で確認できたアザミウマ類（H27～29、14園地調査）

1 基本生態（ミカンキイロアザミウマ）

★分布：北海道、本州、四国、九州

★体長：雌 約1.5mm、雄 約1.1mm

★生態

- ・モモでは春先から新梢に寄生する。果実への寄生は着色始期からみられるようになり、果実表面に産卵管を差し込み産卵する。
- ・成幼虫の吸汁被害を受けたモモの熟果は、果皮が白点状に色が抜ける”かすり症状”（図2）が現れる。
- ・花に対する嗜好が強い。
- ・卵から成虫まで、20℃では約21日、25℃では約13日を要する。

★寄主植物：果樹類、花卉類、野菜類、豆類等

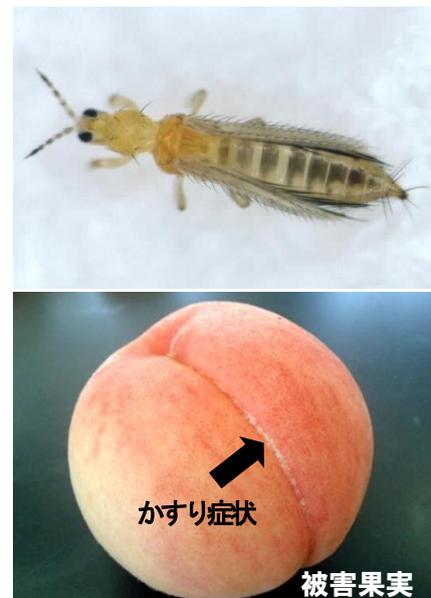


図2. ミカンキイロアザミウマ成虫（上）と被害果実（下）

2 重点防除時期

★果実上に成虫が移動し、産卵を始める着色始期から収穫期まで（図3）。

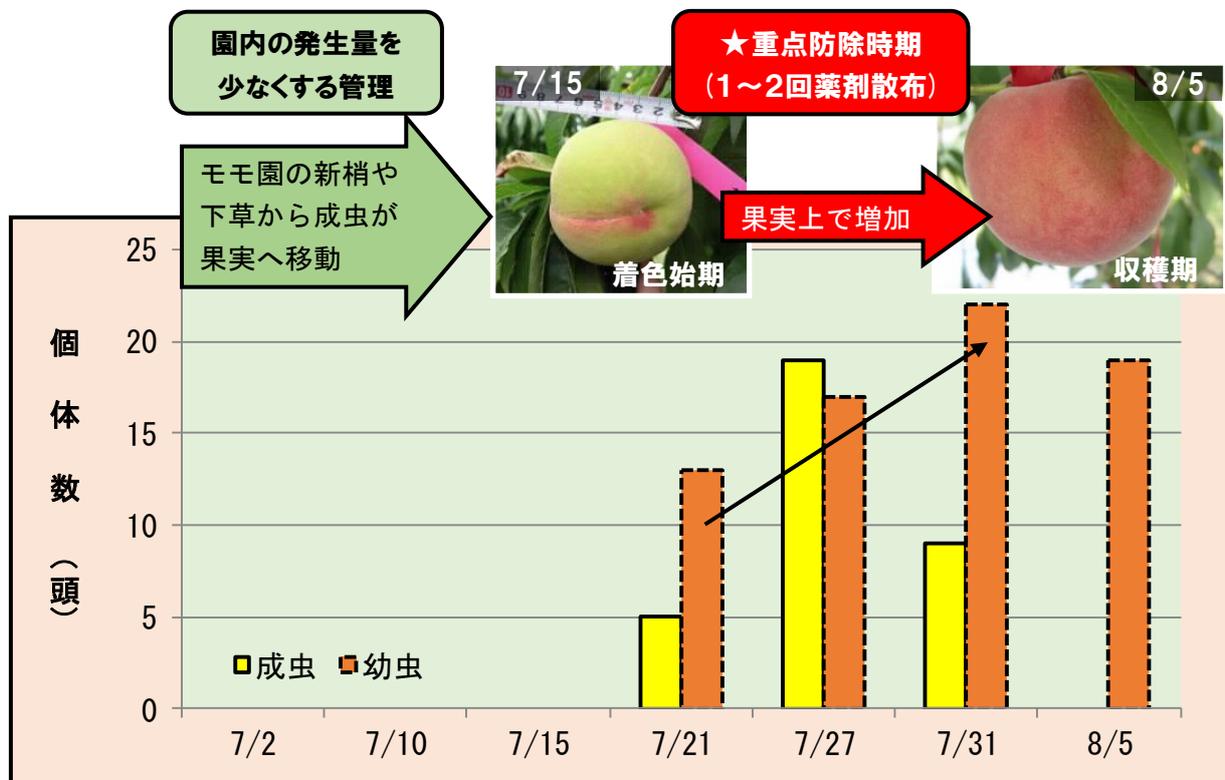


図3. モモ果実上でのミカンキイロアザミウマの発生消長と重点防除時期

3 効果のある防除薬剤と施用方法

★ミカンキイロアザミウマに効果の高い下記の防除薬剤を、無袋栽培では着色始期以降1~2回、有袋栽培では除袋後すみやかに散布する。

- ・スピネトラム水和剤
 - ・アクリナトリン水和剤
 - ・スピノサド水和剤
 - ・クロルフェナピル水和剤
- を重点防除時期に散布。

4 防除の特徴

- ・着色始期（有袋栽培では除袋後）を中心に薬剤散布を行う。
- ・園内や周囲の雑草が発生源にならないよう除草を徹底する。また、着色促進のために着色始期から反射マルチ等を敷きつめることは下草からモモ果実への飛び込み防止に役立つ。
- ・輸出用の果実は選果時に、エアーブラシ等を用いて果実表面のアザミウマ類の除去を徹底する。

〈長野県果樹試験場〉